

令和5年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた外国語教育の推進
 小中連携[小学校との連携を実施した]（中学校側からの回答 90%）

1. 現状

改善が進んだ点

- ①教員の授業力
 - ・言語活動時間50%以上 94.5%(R3 93.1%)
 - ・パフォーマンステスト実施 98.4%(R3 93.0%)
 - ・児童が一人一台端末を活用 96.1%(R3 69.8%[発表ややり取りで使用])

未だ改善が必要な点

- ②小中連携
 - ・小学校と連携している情報交換72.6% (R3 3.2%)
- ①小中連携（継続）
 - ・交流12.9%
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定
 - ・設定している 51.6%

2. 分析

- ①・教育センター主催の研修
 - ・日本人ALTの補助・助言
 - ・教員限定サイトの活用（実践事例の共有）
- ②・教科等教育研究部会や市内研究会での研修
 - ・リーディング校公開授業複数回ハイブリッド実施（オンライン・対面）
- ①・連携の方法についての具体が共有されていない
 - ・連携が授業改善に繋がることへの理解が十分でない
- ②・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定の方法についての理解が十分でない 必要性が意識されていない

3. 施策・事業

- ①「教育センター主催の研修の実施」
 - ・教科等教育研究部会、小学校英語教育研究会と連携した研修の実施
 - ・実践事例の作成、公開
 - 「小学校外国語指導助手配置事業」
 - 「JET-ALT配置事業」
 - 「教員採用選考試験における有資格者への優遇措置」
- ②「英語教育リーディングスクール事業」
 - ・市内の3小学校、3中学校を本市外国語教育を牽引するリーダー校に指定、実践研究、その研究内容について広く公開
- ①・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定を小中連携して行う
 - （小中が課題を共有し、目標を設定）
 - ・小中連携のグッドプラクティスについて教員限定サイトや研修で説明、周知
- ②教員限定サイトへの小中連携した「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の掲載
 - ・教科等教育研究部会での周知
 - ・中学校英語教育研究会と連携した研修

令和5年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを図る資質・能力の育成
 自分の考えや気持ちを即興的に話したり書いたりする言語活動の充実（言語活動75%）

1. 現状

改善が進んだ点

- ① 教員の授業力
 - ・言語活動時間50%以上 69.4%(R3 65.7%)
 - ・授業での教師英語使用 70.4%(R3 69.5%)
 - ・生徒が一人一台端末を活用 98.4%(R3 71.0%[発表ややり取りで使用])

未だ改善が必要な点

- ② 小中連携
 - ・小学校と連携している情報交換72.6% (R3 3.2%)
- ① 小中連携（継続）
 - ・交流12.9%
- ② A L T の活用
 - ・活用内容の工夫
 - ・活用時数

2. 分析

- ① 教育センター主催の研修
 - ・指導主事、英語教育推進リーダー、メンタリング教員の巡回指導
 - ・教育委員会作成教材の活用
 - ② 教科等教育研究部会や市内研究会での研修
 - ・リーディング校公開授業複数回ハイブリッド実施（オンライン・対面）
-
- ① 連携の方法についての具体が共有されていない
 - ・連携が授業改善に繋がることへの理解が十分でない
 - ② A L T の活用が限定的
 - ・デジタル教科書導入後もA L T の使い方に変化がない

3. 施策・事業

- ① 「教育センター主催の研修の実施」
 - ・教科等教育研究部会、中学校英語教育研究会と連携した研修の実施
 - ・指導主事、メンタリング教員の巡回指導「中・高等学校外国語指導助手配置事業」「J E T - A L T 配置事業」「外国語授業改善事業」（英検IBAの実施）
 - ② 「英語教育リーディングスクール事業」
 - ・市内の3小学校、3中学校を本市外国語教育を牽引するリーダー校に指定、実践研究、その研究内容について広く公開
-
- ① 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定を小中連携して行う
 - （小中が課題を共有し、目標を設定）
 - ・小中連携のグッドプラクティスについて教員限定サイトや研修で説明、周知
 - ② 夏休みオンラインイングリッシュタイムでの活用
 - ・教科等教育研究部会での活用方法周知
 - ・小学校英語教育研究会と連携した研修
 - ・イングリッシュコンテスト北九州でのALTの活用

令和 5 年度 北九州市 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションを図る資質・能力を育成
「理解する」「表現する」「伝え合う」統合的な言語活動の充実（言語活動 60%）

1. 現状

改善が進んだ点

- ① 教員の授業力
 - ・言語活動時間50%以上 50%
 - ・授業での教師英語使用 50%以上 44.4%
 - ・生徒が一人一台端末を活用 100%

未だ改善が必要な点

- ① 小中との連携
- ② ALTの活用
 - ・活用内容の工夫
 - ・活用時数
- ③ 言語活動時間
(継続して改善が必要)

2. 分析

- ① 指導主事の訪問
 - ・授業参観、指導助言
- ① 連携の方法についての具体的なイメージがない
 - ・連携の必要性を感じていない
- ② ALTの活用が限定的
 - ・授業での活用に消極的（多様な活用場面の工夫が必要）
 - ・クラブ活動では活躍
- ③ 科目間の連携が十分でない
 - ・領域を統合した言語活動の工夫が必要

3. 施策・事業

- ① 「指導主事の訪問指導」
「JET-ALT配置事業」
- ② 「英語教育リーディングスクール事業」
 - ・市内の3小学校、3中学校を本市外国語教育を牽引するリーダー校に指定、実践研究、その研究内容について広く公開
 - ・高校にも訪問して案内し、参加を促進する
- ① 小中のCAN-DOリストを共有
 - ・小中連携のGPについて教員限定サイトや訪問で説明、周知
- ② 福岡県外国語指導助手の指導力等向上研修への参加促進
 - ・夏休みオンラインイングリッシュタイムの実施
 - ・授業以外の場面での活用促進
 - ・JET-ALT配置事業によるALTの配置、活用に関する指導・助言
- ③ 指導主事の訪問
 - ・授業参観、指導助言